

# 福岡県立図書館報

平成30年(2018年)3月 No. 73



「筑前国十五郡三図」の一図 宗像郡 ※P1に関連記事があります。

## 目次

福岡県立図書館デジタルライブラリについて	P1	おうちの人のための絵本講座 ～赤ちゃんとのふれあいを楽しんで～	P5
資料整理保存研修会 地区別研修会	P2	祝！ユネスコ「世界の記憶」登録 《朝鮮通信使に関する記録》	P6
映画資料整理ボランティア活動開始	P3	福岡県立図書館は2018(平成30) 年に開館100周年を迎えます	P7
平成29年度福岡県立図書館 読書週間事業講演会	P4		

# 福岡県立図書館デジタルライブラリについて

## 1 デジタルライブラリ

福岡県立図書館では、図書館が所蔵する資料をデジタル化して、平成 12 年からホームページ上で公開しています。約 500 点の資料を公開しており（平成 28 年度）、年に一度の頻度で更新しています。資料を公開することで、出版社や研究者、報道機関等から資料の問合せが相次ぎ、平成 28 年度には、98 件の利用申請がありました。

資料をデジタル化する契機は、平成 10 年度に実施した文部省委嘱事業のひとつである貴重資料を CD-ROM 化した事業でした。デジタル化の目的は、原資料を保存することと所蔵資料の利用を促進することです。当館が所蔵する貴重資料と郷土資料を対象に、書籍、絵図、古地図、市街地図、絵葉書等画像中心にデジタル化を推進してきました。



【シーボルト著「日本植物誌」より「ウメ」】

デジタルライブラリで公開中の資料には、福岡県指定文化財である「筑前国産物帳・絵図帳」、竹田文庫（寄託資料）「筑前ちくぜんのくにぞくふどき」と「黒田家譜・黒田くろだかふ続家譜」や、シーボルト著「NIPPON」・「日本動物誌」・「日本植物誌」等があります。

福岡藩主であった黒田なりきよ齊清は、長崎県の出島でシーボルトと交流がありました。齊清がシーボルトに贈呈した鳥の一覧や梅などの情報を、「日本動物誌」と「日本植物誌」に見ることができます。[注](1)

## 2 絵図について

福岡藩の城下図や博多絵図、筑前国絵図、福岡県の近世絵図、鎖国の状態であった江戸時代に幕府が福岡藩に命じた長崎警備に関する絵図等があり、56 点を公開しています。平成 29 年度には、近世絵図である「筑前国ちくぜん十五郡三図」と「博多福岡古図絵巻（写）」をデジタルライブラリに掲載します。

「筑前国ちくぜん十五郡三図」は、「正保 筑前国しやうほうちくぜん絵図」の写しと考えられており、一国図を三図に分割して描かれています。宗像郡は一郡で1枚となっており、この絵図で江戸時代に朝鮮通信使が滞在した相島や、今年度世界遺産に登録された沖ノ島を見ることができます。

「博多福岡古図絵巻（写）」は、八図から成る巻物です。

[注](1)宮崎克則「文政 11(1828)年、出島で会ったシーボルトと福岡藩主黒田齊清」

（西南学院大学博物館研究紀要」第4号 2016年3月）（郷土資料課）

## 資料整理保存研修会 地区別研修会

福岡県立図書館では、毎年度資料整理保存研修会を開催し、資料の製本・補修の知識と技術の習得について、基礎的な内容の伝達と実習を行っており、毎回好評をいただいています。

今年度は、遠方等の理由により当館での研修参加が困難な図書館等職員にも受講いただけるよう地区別研修会を初めて開催しました。

地区別研修会開催館については、6月下旬に募集を行い、今年度は広川町立図書館、桂川町立図書館にお願いしました。2館には主催者となっていただき、受講生の募集から会場の設営までを準備していただきました。

また、昨年度当館で実施した資料整理保存研修会「指導者養成講座」の受講者に研修補助員として参加していただき、資料補修研修講師としてのスキルアップの場となりました。

- ・12月7日（木）南筑後地区研修会 会場：広川町町民交流センター「いこっと」
- ・1月15日（月）筑豊地区研修会 会場：桂川町住民センター



【「補修よりも予防が大事!」講義の様子】



【研修補助員さんも活躍!】

いずれの会場でも、資料補修研修を初めて受講する方が多かったので、資料補修の基本的な考え方をお話した後、すぐにでも実践できる補修方法を中心に実習及び実演を行いました。どの受講者も非常に熱心で手際がよく、研修補助員が受講者の作業を支援することにより、さらに補修方法の理解を深められたようです。

この地区研修会は、来年度以降も継続して実施する予定で、1人でも多くの図書館員に補修知識と技術の伝達を行いたいと考えております。

また、今回のように福岡県立図書館以外の場所で研修を実施する場合、受講者の実習用の道具の調達が必要となりますが、当館では「製本・補修研修セット」を準備して対応できるようにしています。

このセットは、補修等に必要な道具一式を1人分ずつケースにまとめたもので、現在15セットあります。

当館主催の研修会のほか、各図書館で企画実施される研修会にも貸出しをしています。

このほかにも、研修会への講師派遣活動等の支援を行い、県全体での補修技術の向上をめざしたいと考えております。詳しくは、当館ホームページ内「資料製本・補修」のページをご覧ください。

(<https://www.lib.pref.fukuoka.jp/hp/tosyokanin/repair/index.html>) (資料課)



【製本・補修研修セット】

## 映画資料整理ボランティア活動開始

当館の「映画資料」特別コレクションは、1970（昭和45）年、萩尾武美氏よりスチール写真・プレスシート等を、大量に寄贈していただいた事をきっかけに始まりました。

その収集内容は、プレスシート・プレスブック・ポスター・スチール写真等、映画宣伝用資料を中心に、スクラップブック・台本・チケットの半券・グッズ等とバラエティに富んでおり、全国的に見ても珍しい資料群となっています。



【平成29年12月の展示の様子】

この映画資料の収集は現在も継続して行っており、映画館・配給会社等の御協力により、平成30年1月現在の所蔵タイトル数は 邦画 4,870、洋画 9,980、合計 4,850 タイトルに達し、当館HPで所蔵情報を検索する事ができます。

(<https://www.lib.pref.fukuoka.jp/winj/opac/search-original-d.do?lang=ja>)

また、年に2回、テーマに沿った映画資料の展示を企画展示室で行っています。

毎年、配給会社等から寄贈いただく映画資料及び、過去に個人より大量に寄贈いただいた資料を、速やかに整理・排架できるよう、平成29年4月に「映画資料整理ボランティア」を募集し、ボランティア養成講座を開催しました。

現在、映画資料ボランティア養成講座を受講された、7名の方に映画資料整理ボランティアとして、月1回当館で映画資料の整理をお願いしています。

主な活動内容は、資料の装備や保存袋への追加、所蔵データの修正等です。

今後もボランティアの方と一緒に、「映画資料」特別コレクションを充実させていきたいと思ひます。



【映画資料整理ボランティア活動の様子】

(資料課)

# 平成 29 年度福岡県立図書館読書週間事業講演会

平成29年12月2日に「福岡県立図書館読書週間事業講演会」を開催しました。この事業は、例年秋の「読書週間」に合わせて、県内の読書活動の推進を図るために実施しているもので、毎年様々な分野で活躍されている方を講師に迎えて開催しています。

今年度は、在京出版社の社長・顧問の方々を講師に迎え、「出版社の本づくり秘話 伝えたい編集・広めたい営業」というテーマで御講演いただきました。講師を務められたのは、筑摩書房の菊池明郎<sup>きくちあきお</sup>顧問（元代表取締役社長）、平凡社の下中<sup>しもなか</sup>美都<sup>みと</sup>代表取締役社長、原書房の成瀬<sup>なるせ</sup>雅人<sup>まさひと</sup>代表取締役社長、柏書房の富澤<sup>とみざわ</sup>凡子<sup>ひろこ</sup>代表取締役社長の4名で、豊富な業界経験を持ち、現在の出版界をリードしている方々です。

最初に、平凡社の下中氏が「出版社はどのような思いで本を作っているのか」という内容で講演されました。出来上がりのたたずまいにもこだわりながら「STANDARD BOOKS」シリーズを作り上げたことや、図書館も出版社も「本好きの人を増やす」ことが共通の目的であること、若い人には自分だけの書棚を作り価値観を磨いてほしいことなどを語られました。

続いて、原書房の成瀬氏からは、翻訳出版の編集についての講演があり、「世界の茶文化図鑑」という本を例に、日本の出版社が作れない本を体力のある欧米の出版社が作り版權を売り出すことや、文字の部分のみが各国の言葉に訳され中国で印刷されること、また人気作家の本は書く前から版權取得の競争が始まることなどが語られました。

筑摩書房の菊池氏からは出版営業について、1日50万円以上の売上げがあった入社当時の移動販売のことや、会社倒産を機に単品分析を進め適正な配本管理に取り組んだこと、また盛岡市の書店員が書いたポップをきっかけに「思考の整理学」がベストセラーとなったことなどが語られました。

最後に、柏書房の富澤氏が、書店営業と図書館営業の違い（本を目立つように置いてもらう書店営業と、本の必要性を考えてもらう図書館営業）や、若い編集者の提案と営業マンの行動力により「パリのすてきなおじさん」が4種類のカバーで販売展開できたことなどを語られました。

出版業界の裏話を交えながらの興味深い講演に、参加者からは、とても面白かった、もっと長く聞きたかったとの感想をたくさん頂きました。

新たな本好きの人を増やすため、今後も県民に楽しんでもらえるような講演会を企画していきたいと考えています。



【(左から) 富澤氏、成瀬氏、下中氏、菊池氏】

(企画協力課)

# おうちの人のための絵本講座

～赤ちゃんとのふれあいを楽しんで～

子ども図書館では、読書週間に「おうちの人のための絵本講座」を例年実施しています。この講座では、乳幼児と保護者を対象に、子どもに絵本を読んであげることの大切さ、おうちでの読み聞かせの仕方などをお伝えしています。

乳幼児を持つ保護者に講座の形で直接お伝えできる機会は限られています。そのため今回は、とくに赤ちゃん連れの方が参加しやすいように、毎週水曜日の「赤ちゃんのおはなし会」に交えての講座とすることを試みました。絵本の読み聞かせや手遊び、布遊び等の通常 20 分のおはなし会に保護者への解説を加えて、30 分の拡大版としました。早めに広報したところ、通常の倍ほど、20 組の参加があり、会場は満員となりました。

お父さんや、絵本を勉強中の読み聞かせボランティアも参加されました。

講座では、布を使った遊び「じーじーばあ」と「にぎり ぱっちり」を親子で楽しんでもらいました。赤ちゃん絵本は「もこもこもこ」「ととけっこう よが あけた」等を読み聞かせし、手遊びでは「めんめんすーすー」「いちりにりさんり」等を繰り返し楽しみました。布遊びや手遊びでは、親子が体でふれ合うことが心地よく、赤ちゃんもお母さんも笑顔になります。



【赤ちゃんとお布遊びを楽しみます】

赤ちゃんも一緒に 30 分は、退屈して泣き出す子やむずがる子が予想されたため、立ってあやす、ひどく泣く場合は退出もできることを予め伝えましたが、大きな混乱や退出はありませんでした。さすがに終盤にはごそごそ動き始める赤ちゃんもいたので、30 分が限界のようです。

保護者の皆さんはとても熱心に聴かれました。終了後は「うちの子は絵本に全く興味を示さず心配」等の質問も出ました。「お散歩のときに見た犬、乗り物など身近なものや関心を示すものの本から無理なく始めてみては」とお伝えしました。その子にとってのタイミングを見ながら、親子で気長に楽しんでもらえればと思います。

また、講座で紹介した絵本や解説本を展示したところ、終了後にその多くが借りられ、我が子への読み聞かせに対する意欲や愛情を感じました。

短い時間ではありましたが、通常のおはなし会では時間的に伝えられない、子どもの成長に沿った読書や、絵本の選び方等の話を若い保護者にできる貴重な機会となりました。今後も、利用者が参加しやすい形での講座を実施していければと思います。

(企画協力課)

# 祝！ユネスコ「世界の記憶」登録 《朝鮮通信使に関する記録》

平成 29 年 10 月 30 日（日本時間 31 日未明）、「朝鮮通信使に関する記録：17 世紀～19 世紀の日韓間の平和構築と文化交流の歴史」がユネスコ「世界の記憶」に登録されました。

この中には、当館が所蔵する「黒田家文書」の朝鮮通信使関連資料の 15 冊（「朝鮮人<sup>らいはい</sup>来聘記」11 冊、「朝鮮人帰国記」4 冊）が含まれています。



## ユネスコ「世界の記憶」とは

1992 年に開始され「世界遺産」「無形文化遺産」にならぶユネスコの三大事業の一つです。

福岡県内では、日本で最初の登録となった

「山本作兵衛炭坑記録画・記録文書」があります。【「朝鮮人来聘記」11 冊と「朝鮮人帰国記」4 冊】

## 朝鮮通信使に関する記録：17 世紀～19 世紀の日韓間の平和構築と文化交流の歴史

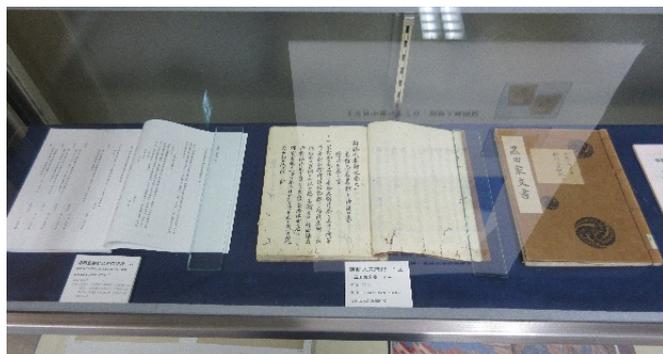
朝鮮通信使とは、主に将軍の代替わりを祝うため、第 1 回（1607 年）から、第 12 回（1811 年）まで派遣された外交使節です。「朝鮮通信使に関する記録」の登録申請は、日韓両国の民間団体によって行われました。日本側の資料 48 件 209 点、韓国側の資料 63 件 124 点、合計で 111 件 333 点にも及びます。

## 黒田家文書について

「黒田家文書」は、福岡藩主黒田家に伝来した総計 590 件 1,013 点に及び江戸中期以降の福岡藩庁の記録です。昭和 39 年に、旧藩主家黒田長礼氏より福岡県に寄贈され、当館で保管しています。

「黒田家文書」の中には、朝鮮通信使に関係する資料が 50 点含まれています。このうち、第 11 回（1764 年）の記録が「福岡藩朝鮮通信使記録（黒田家文書）」の件名で、旅程の記録として「世界の記憶」に登録されました。

この度の登録を記念し、当館では、対象資料の原本を郷土資料室で展示しました。また、エントランスホールでパネル展示を行い、ホームページに特設ページを開設しました。



【原本展示の様子（郷土資料室）】  
（平成 29 年 11 月から 12 月末まで）



【パネル展示の様子（本館エントランス）】  
（平成 29 年 12 月 12 日から平成 30 年 1 月末まで）

（郷土資料課）

# 福岡県立図書館は2018（平成30）年に開館100周年を迎えます

1915（大正4）年、大正天皇即位記念事業として、臨時県会により総経費132,240円で設立が可決されました。なお、当時は大卒初任給が35円、かけそば一杯が4銭だった時代です。

1918（大正7）年に現在の福岡市中央区天神2丁目に初期の図書館が完成しました。

当時の図書館は、本館は木造2階建て延べ492坪、書庫は煉瓦造り3階建て延べ120坪、蔵書は和洋書54,000冊でした。



【1918（大正7）年当時の図書館（外観）】

この当時の建物は1945（昭和20）年に戦災により消失してしまいましたが、1949（昭和24）年に、博多区東公園内に木造平屋建て141坪で再建されました。

その後、1964（昭和39）年に美術館を併置した文化会館として、現在の中央区天神5丁目に移転、1983（昭和58）年には所蔵資料の増大化により、現在の福岡市東区箱崎1丁目へと再び移転しました。



【1964（昭和39）年当時の文化会館（外観）】

1995（平成7）年には、県立図書館に隣接していた県議員会館を別館として改築しました。

別館には、「子ども図書館」や持ち込み資料による学習のための学習室などがあります。

2018（平成30）年には開館100周年を迎えます。

これを記念して、記念式典や講演会等を実施する予定です。

（総務課）



【現在の図書館（外観）】

編集・発行/平成30年3月23日 **福岡県立図書館**

〒812-8651 福岡市東区箱崎1-41-12 ホームページ <http://www2.lib.pref.fukuoka.jp/>

TEL (092) 641-1123 (代) FAX (092) 641-1127

Twitter @fukuoka\_preflib